



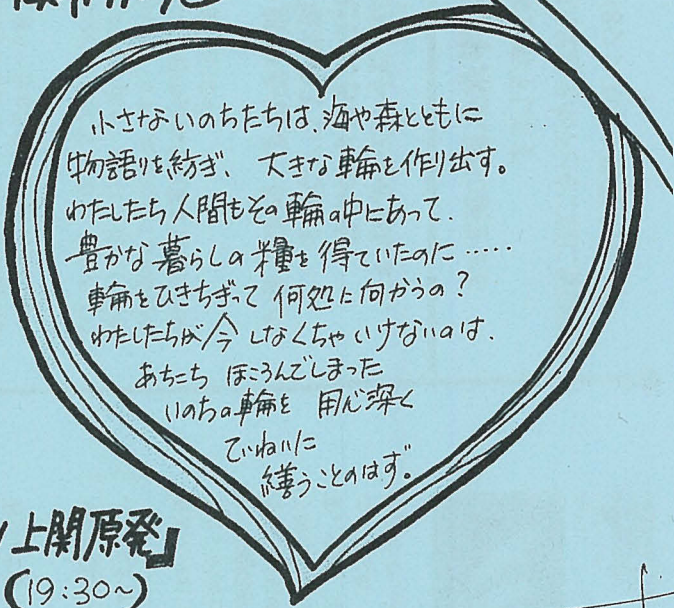
小さないのちの大きな輪

～海を守るために止めよう～
再処理 & 上関原発

2009.12.15 (火) 19:00 Open

★ 超五感 Cafe & Gallery 19:30 Start

PANGAEA
パンゲア



小さないのちたちは、海や森とともに
物語りを紡ぎ、大きな輪を作り出す。
わたしたち人間もその輪の中において。
豊かな暮らしの糧を得ていたのに……
輪をひきちぎって何処に向かうの？
わたしたちが今、はやくやいないは、
あちち ほんごんじまった
わたしの輪を 用心深く
こわはし
繕うことはす。

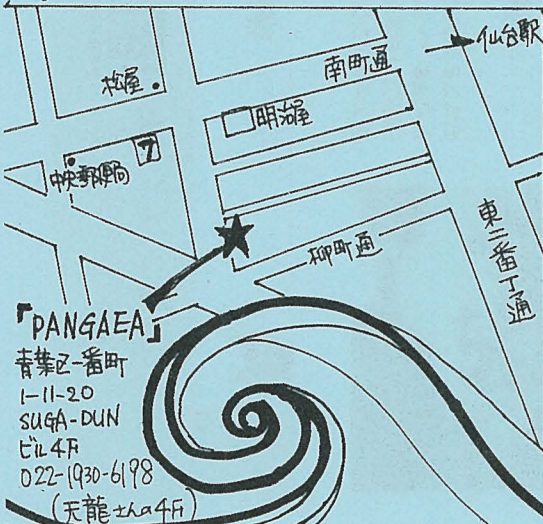
「PEACE ONE EARTH, SAVE THE OCEAN, STOP! 上関原発」 (19:30～)

富田貴史とすてきな仲間たち Talk Live (20:10～)
わたしの海を守る! ～つながりあてて暮らすことを探そう～
三陸の海と再処理工場、瀬戸内の海と上関原発

富田貴史(とみたたかふみ)さん 京都在住。
ドキュメンタリー映画『六ヶ所村ラプソディー』を携えて
少人数で語り合う上映会を全国120か所で企画する。
上関原発計画と向き合う山口県祝島を中心に描く
ドキュメンタリー映画『ミツバチの羽音と地球の回転』
制作スタッフ。著書『わたしにつながるいのちのために』

ラビラビ Special Live (21:30～22:30)

ラビラビ ふたりの打楽器と声の破天荒なフリースタイル3人組。
自然と一体となり即興で紡ぎ出す音は、祭りや祈りに満ちた唯一無二の音楽。
「縄文トランス」と呼ばれ、全国各地でライブ、フィールドレコーディングを行なっている。
その数は年間100本を超えるサウンド ジャブシー。



★ 前売予約 2000円 当日 2300円
30名限定! (電話またはメールにてお申し込み下さい)

★ 予約・問合せ reimama 070-6615-4186
a-fu-reiko@di.pdx.ne.jp

★ 主催 「小さなわたしの大きな輪」実行委員会

★ 協力 わたしの会

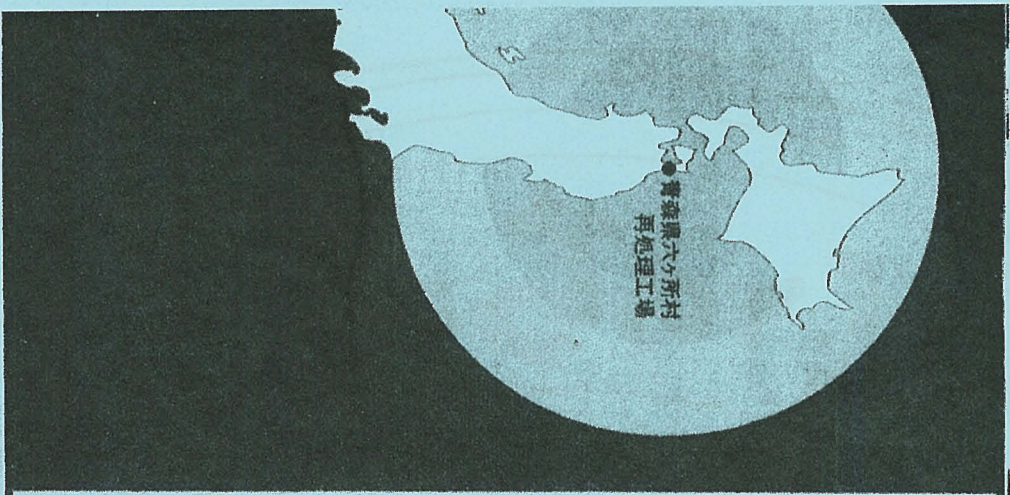


「PANGAEA」
青森区一番町
1-11-20
SUGAI-DUN
ビル4F
022-1930-6198
(天龍ビル4F)

空や海へ原子力発電所1年分の放射性物質を1日で放出する工場！

(本格稼働後)

本当に必要なの？



● 再処理工場とは、全国各地の原子力発電所で使い終わった核燃料からプルトニウムやウランを取り出す工場です。その過程で出る大量の放射性物質が、高さ150メートルの排気筒から空へ、沖合い3キロの放出管から海へ流されます。原子力発電所が放射性廃液を放出する際には濃度の制限がありますが、再処理工場には適用されません。

● 再処理工場が空と海に放出する放射性物質は30種類にもなり、長く放射線を出し続けます。たとえば、ヨウ素129の半減期は1570万年、プルトニウム240の半減期は6500年です。このような放射性物質は、大気その他、農産物や魚介類を通して私たちの身体にとりこまれ、体内から被ばくする可能性があります。

● このように再処理工場は、とりかえしのつかない環境汚染をもたらしながらプルトニウムを取り出しますが、それを使う十分な用途は立っていません。

● 再処理工場内の配管の総延長はおよそ1300kmにおよび、貯蔵タンクには大量の放射性廃液がためられています。地震などによる事故の規模によっては、東日本全体が深刻な放射性汚染を受ける可能性があります。

いったい誰のための、何のための再処理工場なのでしょう？
未来の子どものためにも私たちがカドスツツさせましょう。

- 毎日のように出される放射能の影響は半永久的に続きます
- 放射性物質は海流に乗って太平洋沿岸を南下します
- 遺伝子を傷つける放射能は、細胞分裂が盛んな胎児や子どもに特に危険です
- 直下に活断層があり、マグニチュード8クラスの大地震を起す可能性が指摘されています

かみのせき 上関原発計画

解決できていない、
たぐさんの問題点

得られていない、地元の合意と理解

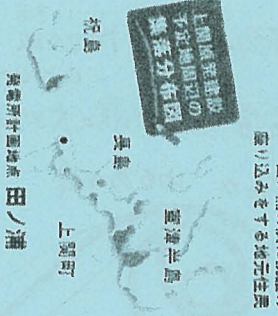
根強い地元住民の反対
祝儀(いわいしよ)をはじめ、多くの町民が30年近くこたつて反対の意志を表明し続けています。また、祝儀の熊師は、10億円以上におよぶ補償金に、いまだに手をつけていません。漁師が補償金を受け取っていない以上、海の埋め立ては延期すべきではないでしょうか。

土地の買収すら完了していない中で計画進行
中国電力の所有する原発用地内には、反対地主の土地——未買収地(中面の地区を除く)があり、原発敷地を取り巻く形で点在(埋設では伊予予定地から260m)しています。私有地がこんなに残っている事実が、地元の合意を得られていないことをあらわしています。

推進派の多くが住む集落からは「見えないう上関原発
反対派の多くが住む祝儀の集落だけが、上関原発建設予定地の真正面に位置しています。そのため、祝儀の住民だけが、原発を毎日目の前に眺めるという心理的圧迫感を覚えることになりす。この不公平さを置きまじりにしたままで、上関原発計画が「地域の選択」と言えるのか、たくさん疑問の声が上がっています。

瀬戸内の玄関、上関 ——失われる生物多様性

黒潮の流れは、上関を経て瀬戸内海へと導かれます。外洋と内海の出会うこの希少な自然環境は、独自の生態系を育んでいます(中面参照)。たくさん研究家・学会が、埋め立てを中止し、より詳しい生態調査を行うべきだと指摘しています。また、埋め立て予定地には「縄文時代の遺跡」としては質・量ともに西日本トップクラスと評価されている「田ノ浦遺跡」も含まれています。



立地としてふさわしいと言えるのか ——地震の多発地帯

上関原発予定地は、「伊予灘および日向瀬周辺地震特定観測地域」に入ります。30数キロ南に中央構造線の走るこの地域では、昔頃から地震が多発しています。文科省は海底活断層の最初の調査地として、予定地のすぐ西を走る若国活断層を指定、警戒している不安定な地帯です。

